



古毛の大岩の標識▶

### 背景

天明7年(1787)、那賀川の氾濫により、古毛村など那賀川下流の村々では田畑が流されるなど、大きな水害に見舞われました。古毛村の庄屋・吉田宅兵衛は洪水から人や田畑を守るため、堤防をつくろうと考えました。下流の村々とも話し合い、藩に堤防工事の許しをもらい、工事を完成させました。しかし、その後も堤防が壊れることが度々で、人々は堤防を万代まで末永く守るために工夫、努力をしてきました。

### アクセス

#### 万代堤の碑

- 持井橋より東に約1kmの北岸堰北詰
- 阿南市羽ノ浦町古毛
- 緯度経度 北緯33度56分38秒, 東経134度35分11秒



万代堤は、山間部から平野に出て右に曲がる那賀川が正面にぶち当たる位置にあります。万代まで続けという思いで造られた万代堤ですが、その歴史には紆余曲折がありました。

天明七年(一七八七)の大きな水害の後、古毛村(現在の阿南市羽ノ浦町古毛付近)の庄屋・吉田宅兵衛は、洪水から人や田畑を守るため、那賀川に堤防をつくろうと考えました。下流の一四の村を回って計画を話すと、どの村の庄屋も賛成してくれました。このため、宅兵衛は藩に堤防工事の許しを願い、藩から許可を得ることができました。

工事中には大水が出て、築堤中の堤防が流されたこともありましたが、下流の村々の人々はそれぞれが受け持った場所で一生懸命工事を進め、ついに堤を完成することができました。長さ五九四間(約一、〇七〇メートル)、底幅二四・五間(約四四メートル)、高さ三間二尺五寸(約六メートル)、天端幅四間(約七・二メートル)の堤でした。

この堤は当時の阿波の国では一番大きな堤防でしたが、文化元年(一八〇四)の大洪水により崩れてしまいました。このため、人々は堤防修理を始めました。この堤防は藩の命令で「万代堤」と名付けられ、人々は今度こそ洪水に負けない頑丈な堤をつくろうと努力し、万代堤を完成させました。

万代堤の完成後も洪水により堤が壊れることは度々でした。このため、庄屋の吉田家の人々が中心になり、村人が力を合わせて、水勢を弱めるために牛柵(水の流れの向きを変えたり、堤防への水当たりを弱めるために堤防から川を中心に向かって出した構造物(水制)の一種。丸太で組んで作った柵を石を入れた籠で押さえた構造物)をつくったり、大岩による水制(水制)を設けるなど、堤を守るために工夫、努力を重ねてきました。